



今年1～5月

マダニ被害3件

大分市、注意呼びかけ

【大分】大分市内でマダニにかまれて感染症になった人が今年に入って3人確認され、昨年、一昨年の届け出件数に並んだ。気温の上昇で活動が活発になっているとみられ、市は「山や畑に行く際は肌の露出をなるべく避け、異変を感じたら医療機関を受診してほしい」と呼びかけている。

感染症はマダニ媒介の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)。ウイルスを保有するマダニにかまれた後、6日～2週間ほどで発熱や食欲不振、吐き気などの症状が出る。重症化して死に至るケースもある。

市保健所によると、県内で今年1～5月末までに感染報告のあった4件のうち、3件が大分市だった。2021、22年の年間届出件数と同じで例年より早いペースで感染している。同所は感染予防策として▽草むらややぶなどに入る場合は肌の露出を避ける▽屋外活動後は入浴し、かまれないか確認する▽給血中のマダニを発見したら医療機関で処置するーなどを挙げる。



重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスを媒介するタカサゴキクラマダニ＝県提供

近年はペットが散歩中に茂みや河川敷でマダニにかまれるケースも増えているという。市保健所保健予防課は「ペット用のダニ駆除剤を使うなど対策をとってほしい」と話している。

(安里葉冬)

〔問①〕今年、大分市内でマダニにかまれて感染症になった人は何人でしょう。

〔問②〕マダニにかまれて感染したらどんな症状が出ますが。

〔問③〕感染を予防するにはどんな対策をすればよいですか。記事の中から3つ抜き出して書きましょう。